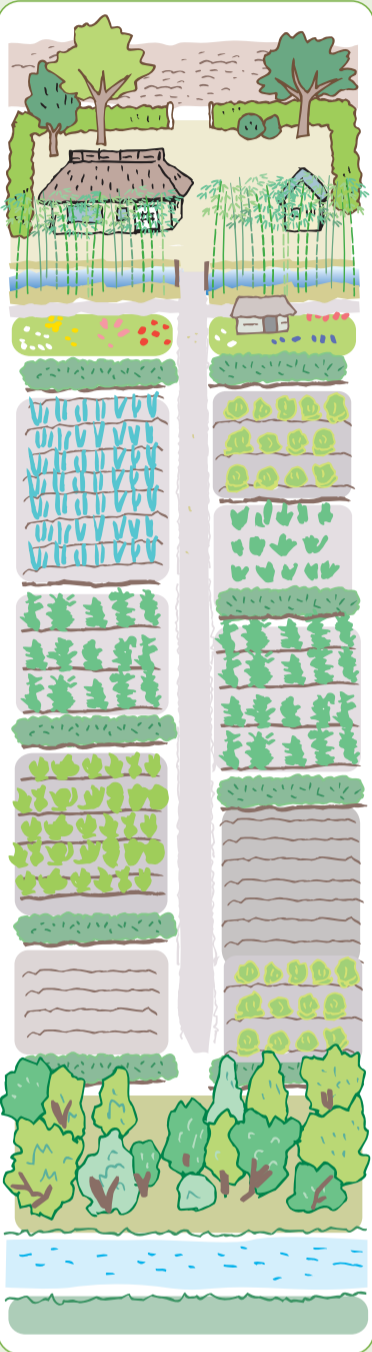


# 土地とくらし



今から50〜60年くらい前まで、ここいらへんは見渡すかぎり畑だったんだよ。遠くのほうには奥多摩や丹沢の山々があって、お天気のいい日は、富士山もくっきりと見えてね。今では想像もできないくらい、広々とした景色だったんだよ。家は青梅街道や五日市街道などの大きな道沿いにあるくらいだったの。建物の

まわりには風よけにケヤキやカシの木など、大きな木が植えてあったんだよ。家が並んでいるところでは、両側から木がせり出して、街道が緑のトンネルのようだったよ。それでね、小平って、おもしろいんだよ。一軒一軒の家ごとに、短冊状に細長く土地を持っているの。どの家も、だいたい同

じ地割になっていたね。これって、江戸時代の新田開発の地割りだったんだよ。青梅街道の南側の家だと、青梅街道から玉川上水まで、ずうっとまっすぐに自分の土地が続いているんだよ。私の家もそうだったけど、青梅街道に面した場所には、ヒイラギの垣根になっていて、家屋敷があるのね。そこには、住まいだけ

じゃなくて、農機具や収穫した作物などを入れる納屋や物置小屋、蔵や外便所、そして、農作業をする広い場所なんかもあるの。そこを抜けると、小さな用水路があって、きれいな水が流れていたんだよ。野菜の泥を落としたり、夏になると子どもが水浴びをしたりしたね。用水路のむこうは竹やぶで、春になると、筍がたくさん採れるんだよ。とれたての筍は、あくもなくて、とってもおいしかったの。私の父親は竹を編むのが上手で、よく竹やぶから竹を切って作っていたね。かこやほうきを作ったり、竹の葉を農作物の霜よけにしたり、竹って本当に便利なものだったよ。

冬は北側が竹やぶで冷たい北風がさえぎられるから、暖かくてとってもいい場所だったの。それで、宝のようないところだから「たから道」だっていう人もいたけど、私のおばあさん

落ち葉を堆肥にしたり、枝はかまどやお風呂の薪にしたり、ヤマはとつても大切だったの。大体、このあたりは、こんなふうになっていったんだよ。

# こだいら ちょっとむかし



## あけましておめでとうございます。

小平には、いまでも新田開発の面影が残っています。

主な街道沿いには、短冊状に区割りされた土地が街道をはさんで対称に並んでいます。それぞれの屋敷に隣接して竹やぶがあり、それが地震のときの逃げ場になりました。

小平の土地の形状がどのように暮らしかかかわっていたかを、タマおばあさんに語ってもらう形で紹介します。



んは、竹原が縮まって「たから」だって、教えてくれたの。たから道のところには、いろいろな花をたくさん植えていてね、きれいだつたよ。その先はずうっと畑が続いていて、ところどころ、お茶の木を一行に植えてあったね。それは作物の風よけにも、畑の仕切りにもなっていたんだよ。このあたりからは、遠くのほうに富士山がよく見えるたね。富士山を見ては、「今日は雲がかかっているから風が強そうだ」とか、「朝、山頂が白くなっているのよ、今年は寒さが早い」とか言って、畑仕事の目安にもなっていたんだよ。畑の先は雑木林で、その向こうに玉川上水が流れていた。雑木林を、このあたりではヤマと呼んでね。

# 関東大震災のとき

去年は東日本大震災という大きな地震があった、大変だったね。それで関東大震災の話を思い出したの。

もう90年近くたっているから、私の生まれる前の話なんだけど、とってもおっかなびっくり、よく親たちから聞いていたよ。

地震が起きたのは、お屋敷で、うちでも囲炉裏に大きなお鍋をかけていたんだって。突然、揺れだしたんで、火事を出さないように、とっさに、お鍋をひっくり返して、囲炉裏の火を消そうとしたんだって。ものすごい勢いで灰がまきあがったけど、火は消えて、ほっとしたそうだよ。

そのあとも、揺れがひどくて、立つてられないくらいだったんだって。だれかの「竹やぶに逃げろ」という大声がしたもんだから、みんな慌てて、裏の竹やぶに這うようにして逃げこんだの。

みんな竹につかまっていたけど、何度も大きく揺れたそうだよ。そのたびに用水路の水が、ポツポツ、ポツポツ、ポツポツと、跳びはねて、子どもの頭にかかるくらいだったんだって。水が全部外に出てしまつたんじゃないかと思うくらい、すごかったらしい。

家が倒れないか心配して、子どもたちは泣き出し、それは大変だった



んで、被害は少なかつたって聞いたよ。

東京のほうの空は薄黒い雲が出ていて、夜になると、真っ赤に見えたそうだよ。そしたらね、焼け出された人たちが青梅街道を逃げてきたんで、はじめて東京が大火事で大変だと分かったんだって。どこに向かうのか、西のほうに歩いていく人が何日も絶えなかつたそうだよ。ほとんどの人が着の身着のまま、はだしだったそうだよ。それから何日も余震があつて、もっと大きい地震がくるといううわさで、こわくてね。家では寝られなくて、竹やぶに蚊帳をつつて寝ていたんだって。

でも小平は地盤が固く



タマおばあさんのお話は、いかがでしたか。感想をどうぞお寄せください。

協力 小平民話の会  
問合せ 秘書広報課 ☎  
042 (346) 9505

